

(20) なばな

ア 各病害虫の防除

根こぶ病

白斑病、黒斑病、べと病

白さび病

黒腐病

軟腐病

花腐細菌病

モザイク病

アブラムシ類

カブラハバチ

キスジノミハムシ

コナガ

ダイコンシンクイ(ハイマダラノメイガ)

ハスモンヨトウ

ヨトウムシ類

ネキリムシ類

ア 各病害虫の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

根こぶ病

・ [共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#) ([根こぶ病菌によるあぶらな科野菜根こぶ病防除](#)) を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 発病歴のないほ場を選定する。
- 2 連作を避け、あぶらな科以外の作物と4～5年以上のサイクルで輪作する。
- 3 発病ほ場では抵抗性品種を作付ける。
- 4 遊走子が根に感染するためには水が必要であるため、ほ場の排水を良くする。
- 5 水稲後作では高さ20～30cmの高うねとし、うね内の停滞水をなくす。
- 6 地温が18℃以上で発病するため、は種時期や定植時期を調整する。
- 7 pH7.2以上では発病が抑制されるため、土壌pHを矯正する。
- 8 罹病残さから休眠胞子が拡散するため、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に持ち出して処分する。
- 9 発病ほ場から耕うん機等を移動する際には、機械に付着した休眠胞子を取り除くため、土をよく払い落とし、丁寧に水洗する。
- 10 ほ場内のあぶらな科雑草も伝染源となるため、除草を徹底する。
- 11 地床育苗する野菜では、4～5年間あぶらな科作物を栽培していない、排水条件の良い場所に、は種床を設置する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 土壌消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 2 発病が予想される場合には薬剤を処理する

白斑病、黒斑病、べと病

(薬剤防除) [農薬登録情報](#) [【白斑病】](#)・[【黒斑病】](#)・[【べと病】](#)

- 1 発病前～発病初期に薬剤を施用(散布)する。

白さび病

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病初期に薬剤を施用(散布)する。

黒腐病

(耕種的・物理的防除)

- 1 あぶらな科作物の連作を避ける。
- 2 密植しない。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病前から薬剤を施用(散布)する。

軟腐病

(耕種的・物理的防除)

- 1 3～4年間イネ科、まめ科の作物を作付ける。
- 2 降雨直後に農作業をしない。
- 3 病株は見つけ次第取り除く。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 微生物殺菌剤は発病前から予防的に処理する。
- 2 発病が予想されるときは薬剤を施用(散布)する。
- 3 根や地際を害する害虫(ナメクジなど)を防除しておく([共通防除の章の共通病害虫の防除「ナメクジ・カタツムリの防除」](#)を参照)。

花腐細菌病

(耕種的・物理的防除)

- 1 多肥・密植を避ける。
- 2 発病花蕾は早めに除去する。
- 3 12月中旬以降に収穫する作型に変える。

※11月中旬～12月上旬に収穫する作型で、降雨が多いと特に発生しやすい。輸送中に腐敗する場合があるため雨天時の収穫は避け、収穫後はむれないように低温で保管する。

モザイク病

・[アブラムシ類を防除](#)する(下記)。

アブラムシ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬を予防的に散布する。

※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

※アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。

- 2 気門封鎖剤を散布する。
- 3 は種時又は定植時に、薬剤を施用(処理)する。
- 4 発生初期に薬剤を施用(散布)する。

カブラハバチ

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生を認めたら、薬剤を施用(散布)する。

キスジノミハムシ

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 は種前に、薬剤を施用(処理)する。
- 2 発生を認めたら、薬剤を施用(散布)する。

コナガ

(予防に関する措置)

- 1 防虫ネット等の使用により、成虫の飛来及び産卵を防ぐ。本虫に対しては、1mm×1mmの目合いで効果が高い。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆を行う。
- 4 交信かく乱剤を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 卵や若齢幼虫が寄生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 生物農薬を活用した防除を行う。
- 3 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 4 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性などが確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 5 作物残さを適切に処分する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 生育初期の被害を軽減するため、は種時に寒冷紗、不織布でトンネルがけする。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 生物農薬を予防的に散布する。
- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

※コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避け、数群でのローテーション散布を行う。なお、既に抵抗性の発達している薬剤も認められるが、その程度は地域により差があるため、実際の使用状況から推測して薬剤を選択する。

ダイコンシンクイ(ハイマダラノメイガ)

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生初期に、薬剤を施用(散布)する。

ハスモンヨトウ

・[共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 交信かく乱剤を活用した防除を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 2 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 4 生物農薬を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に密閉処理を行う。
- 6 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 生物農薬を散布する。
- 3 発生初期に、薬剤を施用(散布)する。

ヨトウムシ類

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 3 種に応じて交信かく乱剤を活用した防除を併用する。
- 4 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 生物農薬を活用した防除を行う。
- 3 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 4 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#) [【ヨトウムシ】](#)・[【ヨトウガ】](#)

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 生物農薬を散布する。
- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

ネキリムシ類

・[共通防除の章の資材・苗床・本ばの消毒の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 被害株周辺の幼虫を捕殺する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。